

平成26年度北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 第3回介護予防・高齢者活躍推進に関する会議 会議録

1 開催日時

平成26年10月29日（水）18:30～20:00

2 開催場所、

北九州市役所 8階 82会会議室

3 出席者等

(1) 構成員

伊藤代表、古市副代表、稲留構成員、江藤構成員、桑原構成員、田村構成員、手島構成員、中尾構成員、永野構成員、宮本構成員、力久構成員

(2) 事務局

介護保険・健康づくり担当部長、高齢者支援課長、健康推進課長、健康づくり・介護予防担当課長、総務課計画調整担当課長 介護保険課長、いのちをつなぐネットワーク推進課長
ほか関係職員

4 会議内容

(1) 介護予防事業の見直しについて

(2) 次期北九州市高齢者支援計画総論・各論（試案）

5 会議経過及び発言内容

〔資料1 介護予防事業の見直しについて〕

構成員

これまで口腔機能の向上に向けて取り組んできた。この資料のなかで口腔に関しては通所型介護予防事業で複合型プログラムとしてやっていくというだけしかない。市として口腔機能の向上についてどのように認識しているのか。

介護予防担当課長

介護予防の観点から口腔機能の向上は重要と認識している。通所事業については、口腔機能として単独のプログラムではなくなるが複合型プログラムに入れて、かつ実施回数を増やすなど参加される方は増加させる方向で啓発に努めていきたい。また、啓発事業のなかでも口腔機能についても周知していきたく。

構成員

新規拡充事業のうち「ロコモ予防推進員の養成」は誰に頼むのか、そういった人材はいるのか。

介護予防担当課長

現在、市が独自に要請しているひまわり太極拳や公園で健康づくり普及員、きたきゅう体操、健康づくり推進員などの普及員が運動面でご活躍していただいている。また、運動面ではないが、食生活改善推進員なども介護予防の観点で活躍している。

まずは、こういった現在活動している方にロコモの観点も踏まえて、今後、地域活動を展開していただきたいということから推進員の養成事業を行っていきたく。

構成員

そうした既存の普及員の活動が地域や市民には見えてこない。こうした事業を地域に下ろすには市民センターでしかないと思う。市民センターを拠点とした健康づくり事業にいれるしかないだろう。既存の普及員がそうした事業・組織の構成員になっていないだろう。

介護予防担当課長

大きな団体を通じてではなく普及員の身の回りの方を中心に誘っていただいて自主活動として地域の公園の健康遊具を使った健康づくりや市民センターを活用して太極拳指導をしていただいているのが現在の状況である。そういった方達は個別に活動をしている方達であるので、活動の中で困ったこと等がある場合に支援が必要な方達でもありと考えている。そういった時に地域リハビリテーション活動支援事業で行政から活動支援を行いながら行っていききたいと考えている。

構 成 員

リハビリ専門職を市が行政区単位くらいにある程度の人員を配置させていくということか。介護予防担当課長

まだ具体的な配置は検討段階ですので、そういったご提案もあるということでお聞きしておきたい。

構 成 員

要支援1・2への方が介護予防訪問介護や介護予防通所介護から外れ、訪問型・通所型サービスが提供されるが、プロとノンプロが混在してサービスを提供することになる。これまでの介護事業所が行うサービスとまだよく内容がわからないが緩和されたサービスがあり、これを地域でやるとなるとプロがいないのでリハビリ職が出向いてやることになるが、行政にもそういった人がいるわけではない。その場合に、病院や介護事業所のリハビリ専門職に助けてもらうにしても現状は無償なので雇用主の事業所から良い顔はされない。こういったリハビリ専門職を活用するのであれば予算をつけてあげないとできないから今後考えてあげていただきたい。

介護予防担当課長

地域リハビリテーション活動支援事業は、介護予防事業のなかでも柱になるような事業なのできちんと人材を確保して充実した取り組みができるように考えていきたい。

構 成 員

県内に理学療法士は約5千人いる。日本理学療法士協会の認定ではあるが「地域包括ケア推進リーダー」と「介護予防推進リーダー」の2つを地域包括ケアや介護予防に特化した理学療法士として養成をすすめている。理学療法士として準備を進めている。ロコモや地域ケア会議への参画への準備を進めているので、国のガイドラインや北九州市の方針の大枠が決まっていけば個々の準備はいつでも参加できる準備はしている。ただ、資格雇用であるので雇用主である施設に対する啓発も必要と理学療法士会としては考えている。

構 成 員

作業療法協会でも協会の中で研修がすすんでいる。研修を受けて参加する準備は着々と進んでいるが、ハード面でのシステム、例えば病院の規模や体制、施設の規模、OT、PTの人員体制によっては、行政が行う介護予防事業や地域活動に作業療法士が出て行けたり行けなかったりするのだからそういったシステム作りは協会でも考えている状況です。

構 成 員

健康づくり推進員もたくさんいるが、他の方にアドバイスできたり教室を開いたりできる高いレベルの方もいれば、身近な方に教える程度の方もいると思う。ロコモ推進員を養成するというのは、みんながロコモ推進員になれるようにしていくのか、それとも推進員の中でリーダーがそれぞれ指導者レベルまであげていくべきものと考えているのか。無償のボランティアということで自分自身は頑張っている活動していただいても新しい方達にその遣り甲斐を伝えづらいうという面もあるかと思う。

介護予防担当課長

多くの方に正しい方法を知って活動していただきたいと思っている。ただ、友達を推進員に誘っていただくにしても、誰にでもできるものではないだろう。まず、リーダーの脂質がある方を意識しながら住民の自主的な活動ができる仕組みづくりを続けていく必要がある。リハビリ専門職を活用した地域リハビリテーション活動支援事業や地域介護予防活動支援事業を含めて検討していきたい。

構 成 員

新たに作成を検討している介護予防手帳は内容を充実させて欲しい。社会福祉協議会では介護支援ボランティア事業を受託している。活動実績でスタンプが増えていくことが充実感になっているようだ。ボランティア大学の修了証もそうだが、取り組んだことが目に見えるものとして残るとモチベーションを保つことに役立っている。介護予防手帳は、情報の詰め込みだけでなくウォーキングなど健康づくりの記録ページを作って欲しい。

構 成 員

いろいろな事業があるが全て中途半端でよくわからない。小さな事業をたくさん作っても何が実ったのか、行政の自己満足に過ぎない。高齢社会が進んできて、ある程度形としてまとめないといけない。個別に事業予算を紐付きで実施しても地域の動きはバラバラである。私も地域活動は担っているが、行政の横の連絡がほぼできていない。自治会長もたくさんの役割を担ってしまい、なおかつ高齢にもなっている。自治会組織は、また何かやらされると辟易している。民生委員や福祉協力員などの動きもバラバラである。組織間で協力してオープンな関係にならないのだろうか。

介護予防担当課長

事業の体系化の考え方、介護予防事業だけでなく他の分野別会議や他局との連携もしていく。

構 成 員

介護保険や地域包括に関する会議とも関連するので、ここで出た意見を調整会議でまとめていただきたい。

構 成 員

「本市における介護予防事業の現状と今後の方向性(案)」において、新規事業のロコモ予防推進員養成事業が、分野別会議での介護予防の取組を自宅や地域で継続できる仕組みが必要との意見を活かしているとあるが、この事業はこれまでの介護予防事業に付加して内容充実する事業のように思える。表現上の問題かもしれないがこれを仕組みづくりとするとこの推進員が介護予防事業の根幹を担うと受け止められはしないだろうか。

介護予防担当課長

仕組みと言い切ってしまうと語弊があるかもしれない。この事業のみで仕組みづくりを形付けるものにはならない。事業に多少でも関連性のありそうな意見を掲載させていただいた。

代表構成員

これまでの介護予防事業に子の内容をさらに充実・強化させていこうということだと思う。

介護予防担当課長

表現方法を検討します。

副代表構成員

ロコモ予防推進員養成研修のプログラムはどこが作成しているのか。

介護予防担当課長

本年度、福岡県において既に実施しており次年度以降本市の事業として引き継いでいくものである。現行では福岡県が実施し認定している。プログラムは厚生労働省の所管である。

構 成 員

新規事業地域介護予防活動支援事業の説明文で「既存事業を刷新し」とある。これまで交付してきた地域へ事業費を取りやめるとの誤解を受けるので修正して欲しい。

構 成 員

チェックリストは今後も個別相談時に活用されていく。その場合に、一般介護予防事業への参加者はどのように集めていくのか。

介護予防担当課長

主になるのは、普及啓発活動の中で広報を集中的にやっていく。高齢者に立ち寄りやすい場所への広報、情報誌の活用、地域で活動している方も様々いるので協力いただくことも検討していきたい。

高齢者の目に触れやすくして事業への参加を促進していく。

【「追加資料高齢者いきがい活動ステーション」及び「資料2次期北九州市高齢者支援計画孫論・各論（試案）」について】

構 成 員

高齢者いきがい活動ステーションは地域包括支援センターの活動とかぶらないよう配慮されたい。

総論 58 ページにおいて、生活支援サービスのニーズが高まることが予想されるとあるが、介護保険事業が活発になり事業者によるサービス提供が増えるほど地域活動から高齢者がいなくなって地域力が壊れていくと状況もあることをよく考えてもらいたい。今後の課題として考えてもらいたい。

構 成 員

介護サービスを利用しながらも地域に出て行っている高齢者もいる。ケアマネージャーや民生委員などいろいろな方が関わりながら良い形で進んでいる地域のたくさんある。

構 成 員

そういった地域もあるが、そういった課題も懸念するので、事業を進めるうえで注意して欲しいという要望です。

構成員副代表

高齢者が地域で活動するにあたって高齢者の元気を維持するためのスポーツの役割もあるが、各論の事業掲載に見当たらないようだ。また、生涯学習活動・学びに活動は、介護予防の部分でも大切かと思う。

高齢者支援課長

資料の詳細説明で省略したが、各論 1-2~3 ページでお示ししている。

構成員副代表

各論において重要な事業だと考える。また、活動の場として市民センターがあるし、ボランティアセンターや穴生学舎の役割が重要である。北九州市では類似公民館も 300 程度設置されており具体的な活動の場として重要になってくる。

構 成 員

老人会では八幡西区穴生ドームを活用して市全体のグラウンドゴルフ大会の開催など実施した。スポーツを通じた高齢者の元気づくりとして、各地域や各区での活動を経て実施している。年長者施設利用証もあり、北九州市は高齢者に恵まれた事業をしていると感じる。

構 成 員

高齢者いきがい活動ステーションはどういった方が利用するのか。

高齢者支援課長

現在のところホームページ上でのマッチングのみである。今後は地域包括支援センターとの連携を踏まえて考えていきたい。

構 成 員

スポーツは健康づくりの面で役立つ部分もあるが、八幡西区穴生地区ではお散歩倶楽部を組織して、地域の散歩コースを配布し、散歩をして楽しみながらその過程で安否確認やチラシ・情報を伝えるなど高齢者の見守り活動に役立てており、運動を通して地域活動に誰でも参加しやすい工夫がなされている。

構 成 員

生涯現役夢追い塾の活動についてご紹介したい。

いろいろなボランティア活動をしているが、地域との交流ができるので市民センターを利用するようにしている。

その一方で、高齢者の地域での居場所作りや認知症予防のためにサロン等にも取り組もうとしているが、運営経費やどこでやるのかが議論の中心となっている。空き家対策として、市が借り上げてくれてそこを利用できないかという声があがっている。

構 成 員

福祉協力員や民生委員による地域での見守りがやはり大切だと思う。地域での単身高齢者の見守り活動で安否確認ができたケースがある。北九州市では高齢者を見守る施策があり、大変ありがたいと考えている。